

「伊那に生きる、ここに暮らし続ける」 地域の魅力と文化を次世代へ

はじめに

伊那市は、平成18年3月31日に旧伊那市・高遠町・長谷村が合併して、新「伊那市」として誕生しました。面積667.9km²、東京23区より広い市域で、人口は約7万人です。長野県の南部に位置し、東の南アルプス、西の中央アルプスに抱かれ、中央には盆地地形を流



「天下第一の桜」と称される「タカトオコヒガンザクラ」

れる天竜川や、天竜川の最大支流の三峰川沿いに形成された河岸段丘と田園風景が、特有の美しい景観をつくり出しています。

「山・桜・食」をキーワードに観光満足度UP

山で代表される南アルプスは、国立公園50周年の節目の年を迎えた平成26年6月にユネスコエコパークに登録され、現在世界からも注目されています。南アルプスの山岳拠点となっている本市では、夏山の時期にJR特急と接続し、東京、名古屋から茅野駅を経由して南アルプスをつなぐ直行バス「南アルプスジオライナー」を運行し、新宿から3時間半で、玄関口の「戸台口」に到着できるように利便性を高め多くの登山者をお迎えしています。

淡い赤みで「天下第一の桜」と称される高遠城址公園の「タカトオコヒガンザクラ」は全国的に有名です。同公園は年間20万人以上が訪れる観光地ですが、それ以外にも、春日公園、伊那公園、六道の堤、三峰川堤防などフォトポイントとしても人気の高い桜の名所があり、市民の方と一緒に「日本一の桜の里づくり」に取り組んでいます。

1300年ほど前に、本市内の、内の萱の村人に伝説の修験者「役小角（えんのおずぬ）」が、一握りのそばの実を与えたことで、信州全体にそばが広まった伝承から、信州そば発祥の地とされています。毎年10月下旬からは「5週連続！ぶつとおしのそば三昧」と銘打って毎週末に市内各所でイベントを開催し、「高遠辛み大根」と「焼き味噌」で食べる手打ちの「高



信州そば発祥の地

「山・桜・食」をさまざま組み合わせ、上伊那はもちろん権兵衛トンネルにより車で約30分で結ばれる木曾谷まで広域的な視点でとらえ、観光満足度UPに取り組んでいます。

移住・定住への取り組み

本市では、まち・ひと・しごと創生法の施行に先駆け、「移住・定住促進プログラム」を策定し、子育て共働き世代をメインターゲットに、移住・定住に向けた支援や、移住者と地域との結び付けを進めて

きました。その成果もあって『田舎暮らしの本』（宝島社2月号）において、本市は、「子育て世代にぴったりの田舎部門」の全国第一位に選ばれました。これは、独自の教育文化と地域の取り組みで子育てを手厚くサポートしていることが高い評価を受けたものです。

特に、自然との触れ合いなど総合学習の先進校として全国に知られる伊那小学校では、「こどもは自ら求め、自ら決め、自ら動き出す力をもっている存在である」との観点から、通知表や時間割がなく、子どもが主体的、体験的、総合的に学ぶことができる教育を行っています。

また、豊かな自然環境に囲まれ、「小規模特認校」制度により域外通学も可能な新山小学校では、地域の全家庭がPTAに所属し、地域への愛着や誇りを醸成する教育を行っています。新山地域では、移住者を積極的に受け入れる「田舎暮らしモデル地域」として、住宅建築費などの助成も受けられ、田舎での子育てを求める移住者が増加しています。

これからも、移住先として、多くの皆さまに選ばれる「伊那市」を目指して取り組みを進めていきます。

エネルギーの地産地消

近年、地球温暖化を緩和するため、温室効果ガスの大きな割合を占める二酸化炭素の排出抑制による低炭素な社会を構築することがますます求められています。それと同時に、「エネルギーの地産地消」というキーワードも多く聞かれるようになりました。

地域によって利用できる再生可能エネルギーはさまざまですが、本市においては、面積の8割を占める森林資源を利用した木質バイオマスと、豊かな水資源を利用した小水力発電の積極的な普及に取り組んでいます。

特に、木質バイオマスに関しては、木質ペレットを燃料とするペレットボイラーを老人福祉施設や、保育施設などに積極的に導入を進めており、今後は、農業施設、福祉施設、温泉施設などに導入する計画です。市内のペレット工場は、平成26年度の生産量が約2000tを超え全国トップクラスとなっています。本年度はさらに2割増の生産を見込んでおり、地域の産業としても成長が期待できます。

また、本市は薪ストーブの設置率も全国トップクラスとなっています。さらなる普及により、間伐が進み、山の環境保全に有効であると同時に、薪に関する新たな雇用（生産者、販売店、配達業者など）も創出されると期待されています。木質バイオマスのさらなる普及に向け、家庭へのペレットストーブや、薪ストーブの設置に対し補助金交付をしています。

プロフィール

また、本市は薪ストーブの設置率も全国トップクラスとなっています。さらなる普及により、間伐が進み、山の環境保全に有効であると同時に、薪に関する新たな雇用（生産者、販売店、配達業者など）も創出されると期待されています。木質バイオマスのさらなる普及に向け、家庭へのペレットストーブや、薪ストーブの設置に対し補助金交付をしています。



伊那市長
白鳥 孝

〔将来都市像〕2つのアルプスに抱かれた自然共生都市。人と歴史と文化を育む活力と交流の美しいまち

〔まちの特徴〕電気・食品・光学・自動車部品・ロボットなどの工業を主体として、商業・農業・および観光を加えた多様な産業で構成されているまち

〔市町村合併〕平成18年3月31日、旧

- ◆ 面積 667.93 km²
- ◆ 人口 6万9518人
- ◆ 世帯数 2万6996世帯



伊那市、高遠町、長谷村と合併

〔特産品〕高遠そば、ソースカツ丼、ロイメン、アリストロメリア、アスパラ、トルコキキョウ

〔観光〕中央アルプス、南アルプス、高遠城址公園、みはらしファーム、三峰川溪谷、鹿嶺高原、仲仙寺、蓮華寺、遠照寺、かんでんばガーデン

〔イベント〕羽広の獅子舞、春の高校伊那駅伝、高遠城址公園さくら祭り、伊那まつり、5週連続そばまつり

結びに

私のモットーである「伊那に生きる、ここに暮らし続ける」を基本理念に、市民一人一人がここに住んで良かったと思えるようなまちづくりに取り組み、私たちがふるさとに誇りや愛着を持つことが、次世代に向けて伊那市のファンを増やし、活力あるまちをつくりあげていくものと確信しています。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

支えあい共につくる 安全で活力ある みどりの住宅都市 杉並

住宅都市としての 魅力を高める

杉並区は地理的には関東平野西部の武蔵野台地の上、東京23区の外端に位置し、東京の発展とともに、自然に恵まれた住宅都市としての性格を持ちながら成長してきました。現在、都市計画における用途地域でも住居系が約85%を占めています。区の中央を東西にJR



静岡県、南伊豆町との三者で特養整備に関する基本合意書を締結(平成26年)

中央線が走るとともに、北部を西武新宿線、南部を京王井の頭線が走っており、新宿や東京、渋谷といった繁華街にも非常にアクセスの良い地域です。

平成26年度の区民意向調査では、生活環境全般については93・0%、交通の便については92・0%の区民が「良い」と回答し、これらを背景とした定住意向は87・7%と9割近くとなっており、その結果、住みよいまちだと思う区民は95・0%に上り、住環境については高い満足度を維持しています。

このように、区民からも一定の評価をいただいているところですが、住宅都市としての質をより一層高めるため、建築物の耐震化、木造密集地域の解消、狭あい道路の拡幅整備など、快適で強い安全・安心なまちづくりを進めると

ともに、駅を中心とした魅力的でにぎわいのあるまちづくりなどにも取り組んでいます。

安心して子どもを産み 育てられる環境づくり

本区の人口は、地方をはじめ区外からの若年層を中心とした転入者により、平成27年5月1日時点で人口は55万人を超え、近年は増加傾向にあります。区の平成25年の合計特殊出生率は0・95と、東京都の中でも低い水準にあります。

こうした状況の下で、区は安心して子どもを産み育てられる環境づくりのため、まず待機児童問題を少子化対策の入口と位置付け、その解消に最優先で取り組み、平成25、26年度の2年間で、保育定員を約2000人増やしました。その結果、平成27年4月1日時点の2



すぎなみアニメキャラクター「なみすけ」(公募で平成18年に選出)

歳から5歳までの待機児童を解消することができました。引き続き、平成28年度の0歳児と1歳児を含めた待機児童の解消に向け、認可保育所を核とした施設整備をはじめとした取り組みを進めています。

また、核家族化の進展など社会環境が変化する中で、妊娠・出産・育児を安心して行えるよう、出産育児準備教室、すこやか赤ちゃん訪問事業、産後ケア事業などを通じて、妊娠期から産後までつながりのある母子保健サービスと子育て支援サービスを総合的に推進しています。

さらに、区内5カ所の保健センター内に子どもセンターを整備し、身近な地域において母子保健と連携して子育てサービスの利用相談や情報提供を行っているほか、区民等の寄付による次世代育成基金

を創設・活用して、自然・文化・芸術・スポーツなどのさまざまな体験・交流事業への子どもたちの参加を支援するなど、次代を担う子どもたちへの切れ目のない子育て支援策を幅広く行っています。

健康長寿と支え合いのまち

本区では、区内20カ所に設置している地域包括支援センターすべてに、地域包括ケア推進員を一人ずつ配置するとともに、医療・介護の関係者の連携の下、認知症高齢者の早期発見・対応を図る認知症対策や在宅医療・介護連携に向けた在宅医療地域ケア会議を実施するなど、地域ニーズをとらえた高齢者の在宅生活を支える地域包括ケアシステムの構築に向け取り組



約120万人の見物客が訪れる「東京高円寺阿波おどり」(8月最終土日に開催)

んでいます。併せて、在宅生活が困難になった場合に備え、特別養護老人ホーム(特養)などの定員を平成24年度から10年間で10000人増加させる目標を立て、特養の整備を推進しています。

このように地域包括ケアシステムの構築と特養整備に力を入れて進めておりますが、特養については用地確保が困難であることから、現在の入所希望者は約1400人に達し、そのうち約850人は入所の緊急性が高い方となっているのが現状です。

そこで、本区では、区内整備を基本としつつ、入所希望者の選択肢の一つとして、南伊豆町との自治体間連携による特養の整備を検討し、南伊豆町、静岡県との三者で協議を重ねてきました。

その結果、平成26年12月、三者の基本合意書の締結に至ることができ、現在は、平成29年度中の開設に向け、建設・運営事業者の公募を開始するなど、着実に歩みを進めています。

この圏域外の特養整備は、都市部での特養整備がなかなか進まない中で、増加する入所ニーズに対応するものであり、地方にとっては

雇用の創出、親族の訪問や地域食材の活用による経済効果などが見込め、双方にプラスになる自治体間連携の先駆的モデルとしても大きな意義のある取り組みと考えています。

おわりに

現在、区には人口減少・少子高齢社会への対応、首都直下型地震をはじめとした都市災害への対応など、歴史上経験したことのない重い課題が突きつけられています。

特に、喫緊の課題である人口減少・少子高齢化については、国も「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、人口減少の克服に乗り出しました。これらの課題に立ち向かうのは未知への挑戦といえるべきものですが、区としての努力はもちろん、国や地方とも連携し、区政運営の基本となる「杉並区基本構想(10年ビジョン)」の将来像「支え合い共につくる 安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並」を実現するために、全力を尽くしていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 34.06 km²
- ◆ 人口 55万1287人
- ◆ 世帯数 30万8372世帯

〔将来都市像〕支え合い共につくる 安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並
 〔まちの特徴〕杉並区にある大宮八幡宮は東京のほぼ中央に位置するため「東京のへそ」という異名を持つ



杉並区長
田中 良



〔観光〕善福寺公園、杉並区立郷土博物館、杉並アニメーションミュージアム、大宮八幡宮
 〔イベント〕東京高円寺阿波おどり、阿佐谷七夕まつり、阿佐谷ジャズストリート、荻窪音楽祭、久我山ホテル祭り

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

こまき 小牧市（愛知県）

小牧市長

やましたしずお
山下史守朗

わが

郷土の歴史を礎に、ブランド戦略へ 夢・チャレンジ 始まりの地小牧

田園都市から産業都市へ

小牧市は昭和34年、伊勢湾台風からの復興を契機に、農業依存からの転換と財政基盤の確立のため、工場誘致と大型住宅団地の誘致を図ってきました。当時中部の空の玄関であった名古屋空港を擁し、名神・東名高速道路・中央自動車道の3大ハイウェイの結節点という立地条件にも恵まれ、かつての田園都市から、陸上交通要衝都市の性格を有する内陸工業都市へと大きく変貌し、中部の中核都市へと発展してきました。

地域主権時代における 戦略的市政の推進

少子高齢化と人口減少社会への対応が急務になっています。そのため、本市では市長を本部



小牧市の地域ブランド
ロゴマーク

長とする市政戦略本部の中に戦略会議（産業立地戦略会議、高齢者福祉医療戦略会議、自治体経営改革戦略会議）を設置し、市長自ら議論に加わり、外部の専門家とともにゼロベースで議論を積み上げていきました。

例えば、高齢者福祉医療戦略会議では、市長のほか、市民病院長はじめ医師会、訪問看護事業者、地域包括ケアセンター、ケアマネージャーなどの代表で構成され、10年後の本市における高齢者の生活イメージを共有しつつ、現在の国や県の施策では十分に実現されないであろう部分について、市と関係者が早急に実現していくべき優先施策について議論しました。

その結果は、医療・看護・介護などの関係機関との連携を密にして、在宅医療介護連携体制の充実

強化に向けた動きなどにつながっています。

こども夢・チャレンジ No.1都市へ

住民から「住みたいまち」「住みたいまち」と思われるためには、産業や福祉などの充実度といたった総合的なまちづくりだけでなく、そのまちの歴史、文化、自然といった体験的・観念的な価値観の醸成も重要です。

そのため本市では、市民のまちに対する愛着や誇りの醸成を目指して地域ブランド戦略を推進しています。

充実した子育て環境

本市は従前より、近隣他市に先駆けて、全小学校における児童クラブの整備や中学生までの医療費

の無料化など子育て支援策を積極的に行ってきました。また、保健連絡員による赤ちゃん訪問や、親子健康手帳の作成など妊産婦へのアプローチも他市に比べていち早く手掛けてきました。近年では、働きながら子育てしやすい環境を整備するため、保育時間延長や一時保育の利用拡大、児童クラブの時間・学年の拡大、各種予防接種の無料化などの新しい施策を行ってきました。

施設面では、中学校区に1つの割合で児童館があるほか、全国でも珍しい絵本に特化した図書館「えほん図書館」も設置しています。さらに、市民四季の森や温水プールなど魅力ある施設も充実しています。

本市のシンボル小牧山

小牧山は、徳川家康と豊臣秀吉が天下を巡って対峙した「小牧・長久手の合戦」で有名ですが、戦国三英傑のすべてがかかわった稀有な史跡でもあり、国の指定を受け



国産初のジェット旅客機として開発が進められているMRJ

こうした本市の地域資産を活用し、小牧山にまつわる織田信長の「夢・チャレンジ」の歴史を礎に、本市のブランドコンセプトを「夢・チャレンジ」の地「小牧」とし、「子育てしやすいまち」の姿を一層高めるとともに、さらに高い地域の姿として、

ています。

特に、織田信長が自ら手掛けた最初の城「小牧山城」は、近年の発掘調査により当時の石垣が発見され、それまでの常識を打ち破る革新的な城づくりの姿が徐々に明らかとなり、近世城郭へとつながる原型ではないかと全国的にも大きな注目を集めているところだ。戦国の乱世にあつて斬新な発想、革新的な挑戦によつて時代を切り拓いていった信長が天下統一への夢への第一歩とした地、まさに「夢・チャレンジ」の始まりの場所だ。

「こどもの夢を育み、夢へのチャレンジをみんなで応援するまち、こどもを中心にすべての世代がつながっているまち」すなわち「こども夢・チャレンジNo.1都市」を目指します。

また、「史跡小牧山」は、歴史・文化スポットとして、市民の憩いスポットとして、また「子育てシンボル」スポットとして整備を進め、「近世城郭のルーツ」信長の小牧山城」を市内外に発信していきます。

夢へ挑戦する精神の継承

小牧山を舞台に夢に向かって挑戦する姿は後世にも受け継がれ、明治時代に海部兄弟によつて幾度もの失敗を乗り越えて試行錯誤の末に創出された、全国的に知られる地鶏の代表「名古屋コーチン」は小牧発祥であります。

また、近年では、国産初のジェット旅客機として開発が進められ、小牧から世界の空へ羽ばたこうとチャレンジしているMRJ（三菱リージョナルジェット）や、さらには、小惑星探査機はやぶさ2を搭載したH12Aロケットの要となる液体ロケットエンジンの製造をはじめ、多くの夢と活力ある先進

的な技術が小牧ではぐくまれていきます。

本年は、市制施行60周年であり、それを記念して誕生した新たなマスコットキャラクター「こまき山」は夢に向かって挑戦する力士で、本市のシンボルである小牧山をイメージしています。

60周年のコンセプトである「六十年の歩み 未来へつなぐ夢！ 私たちの小牧夢・チャレンジ 始まりの地」、私たちはこれからも、郷土の先人たちが培ってきた「夢

プロフィール

- ◆ 面積 62・81km²
- ◆ 人口 15万3768人
- ◆ 世帯数 6万4847世帯

〔地域ブランドコンセプト〕

「夢・チャレンジ 始まりの地 小牧」

〔まちの特徴〕 信長が築いた小牧山城は近世城郭のルーツとして注目を集める。内陸工業都市として発展し、今年市制60周年



小牧市長 山下史守朗



〔特産品〕 名古屋コーチン、桃、ぶどう、えび芋

〔観光〕 市民四季の森、田縣神社、小牧山、メナード美術館、パークアリーナ小牧、小牧市温水プール

〔イベント〕 小牧市民まつり、小牧平成夏まつり、小牧シティマラソン



小牧市の新たなマスコットキャラクター「こまき山」

に向かって挑戦する精神」をしつかりと引き継ぎ、未来に向かって大いなる夢を描き、限らない挑戦を続けていきたいと思ひます。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

バージョンアップする浅口市

はじめに

浅口市は、岡山県の南西部に位置し、瀬戸内海に隣接する自然条件に恵まれた県内一コンパクトな市です。引き伸ばしと熟成を繰り返し、乾燥させる製法である「手延べ麵の生産が盛んなまち」でもあります。夏に人気の素麵は有名

伝説の地が残っています。

さらに、約50年前、当時としては東洋一の大きさの望遠鏡を備えた天文台が建設されました。そしてこのたび、世界一の技術を持ち、アジア最大の口径3.8mの「宇宙一」の望遠鏡を備えた天文台の建設が始まろうとしています。現在も、大気が安定し、雲の少ない日が多い「日本一晴れの国」である本市にこのような望遠鏡がやってくることを50年に一度の絶好の機会ととらえ、「天文台の街あさくち」を全国に、そして世界に発信し、市の知名度を高め、移住者の増加、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

住みやすさ中国地方第4位

本市は県内で最もコンパクトな

まちであり、行政と市民との対話により、市民ニーズを的確に反映することができる強みを持っています。近年、地域の公共交通の確保や維持が求められる中、本市では、大型スーパー・医療機関・公共施設を結ぶ無料の市営バス「浅口ふれあい号」を運行しています。子どもから高齢者まで誰でも利用することができ、市民の生活を支える移動手段として親しまれています。

また、東に倉敷市、西に広島県福山市の2つの中核都市に近接する本市は、通勤通学に便利なベッダタウンとして注目されています。さらに、地震や自然災害が少なく、田園風景が広がる落ち着いた環境で暮らすことができるまちとして「中国地方住みたい街ランキング」において第4位となりました。

定住促進 「きつとずっと浅口」

快適で安心して暮らせるまちづくりを目指すとともに、移住定住促進のため平成26年度から「あさくち住マイルプロジェクト」を展開しています。そのひとつに、駅や学校などの拠点施設周辺への民間による宅地開発を進める際、既設道路の拡幅などの整備を行う事業者に対し、奨励金を交付する「あさくち住マイルロード促進事



手延べ麵の製造風景

ですが、特に「手延べうどん」の生産量は日本一です。また、本市は「天文のまち」でもあります。平安時代の陰陽師安倍晴明が当地において天体観測を行った



浅口市に現れた「宇宙一」の望遠鏡

業」があり、本市へ移住しやすい環境づくりを進めています。

さらに、企業立地による新たな雇用の拡大も図っています。国道2号バイパスや山陽自動車道鴨方IC等への交通アクセスの良さを生かした工業団地の整備を進めており、若者が浅口市で働き、浅口市に家を立て、子どもを育て、住み続けることができるまちを目指しています。

子育て・学力向上への挑戦

これからの本市の発展の鍵を握るのは、未来を担う子どもたちです。子どもたちの健全育成や学習環境の充実、市全体で取り組むべき重要課題であると考えています。

そこで本市では「子育て王国あさくち」の創造に向け、保育園・幼稚園の保育料を軽減し、中学校卒業までの医療費の一部負担金の無料化などの子育て支援策を実施しています。

また、警察官OBが小中学校の巡回を行う「スクールポリス」の導入や、保育園から中学校までの各施設への防犯カメラ設置など、落ちついた学習環境づくりを図っています。また、子育て中の保護

者の不安や疲れを癒やしてもらうための子育て支援施設の整備も予定しており、安心して子どもを生み育てやすい環境の整備にも、積極的に取り組んでいます。

さらに、総合的な学力の向上を目指した「学力向上No.1プロジェクト」では、市内公立幼稚園、小中学校の普通教室へのエアコン設置や、児童・生徒の学習意欲を高めるためのタブレット型パソコンの導入、そして学力向上支援員の配置や夏休みを短縮して授業時間を確保するなど、学習環境の整備や学力向上に向けた事業を展開しています。

引き続き、子どもたちが知・徳・



児童・生徒が学習しやすい環境を整備

体の調和の取れた学力を身につけ、大人たちが安心して子どもを生み育てることができ、浅口市の実現に向け、積極的に取り組んでいきます。

おわりに

本市は、平成27年度には合併から10年という節目の年を迎えます。本市が未来に向かい、着実に前進をしていくための大変重要な1年ととらえています。地方交付

プロフィール

- ◆ 面積 66・46 km²
- ◆ 人口 3万5546人
- ◆ 世帯数 1万3994世帯

〔将来都市像〕 快適・安心・思いやり
活力あふれる文化創造都市
〔まちの特徴〕 瀬戸内海と遙照山系に
囲まれた自然と歴史あるまち

〔市町村合併〕 平成18年3月21日、金光町、鴨方町、寄島町による新設合併



浅口市長
栗山康彦



〔特産品〕 白桃、手延べ麺、寄島カキ、梨、地酒、植木、ガザミ
〔観光〕 岡山天文物物館、かもがた町家公園、瀬戸内海国立公園、丸山公園
〔イベント〕 鴨方町手延べまつり、アツケシノウ祭り、浅口市金光春季・秋季植木祭、あさくち花火大会、よりしま海と魚の祭典、大浦神社競馬神事

税の縮減、人口減少・少子高齢化など課題は山積していますが、多様化する市民ニーズに的確に対応していくため、市の戦略的な将来ビジョンを明確に持ち、最大限の成果を挙げるべく、市民生活の満足度を高めていくことが重要であると考えます。そして、今を生きる市民の皆さまや次世代を生かす子どもや孫たちが「住んで良かった」と思えるまちを目指していきたいと考えています。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。